

思い出の画像による個人認証や カプセル型内視鏡が展示



●●NORIKA3のカプセルの直径は9ミリ、長さは23ミリ。カプセル内のカメラで1秒間に30枚の画像を撮影し、無線で体外に送信する。



●●IDカードをかざすとダミーを含めた認証画像を表示する本人認証システム。価格は約300万円。今年から実用化されるという。



●【音のバーチャルリアリティー】は演奏会の映像を見ながらマウスカーソルで画面内を移動すると、位置に連動して音響が変化する。



●フィグラ多目的清掃ロボット(仮称)は、フル充電で約2時間の走行が可能。価格は100万円前後で来年の発売を目指す。



多目的清掃ロボットや バーチャル演奏会の体験も

暮らしのなかで使われるIT技術や開発中の最先端技術を紹介する展示会「TEPIA第17回展示 e-ライフ展」生活産業の新技术」が東京・青山のTEPIAプラザで開催中だ。毎年テーマを決め、1年間の会期で展示を行なうもので、今回は、エレクトロニクス、エコテクノロジーに焦点をあてた製品や技術を紹介している。

個人認証技術「ニモニックガード」は、子供のころの思い出や好きなことなど、利用者の記憶に基づく画像をパスワードとして登録し、本人認証を行なうもの。本人がパスワードを忘れることがなく、他人に類推されにくい点特徴。SKRテクノロジーの「本人認証システム」は、同技術を使ったセキュリティシステム。ICチップ内蔵のIDカードに特殊なフィルムを



●非接触型のICチップ、ミニチップは来年開催される愛知万博の入場券にも内蔵。

組み込み、リーダーにカードをかざすとフィルム越しに画像が表示され、認証を行なえる。

「フィグラ多目的清掃ロボット(仮称)」は、自律走行式の清掃ロボット。超音波センサーと赤外線センサー、ジャイロセンサーを搭載することで、障害物を避けて走行したり、隅々まで清掃できる。ネットワークカメラを搭載し、巡回監視ロボットとしての利用も可能。

「NORIKA3」は、カプセルにCCDカメラとLEDを内蔵し、7～8時間かけて消化管内を撮影する。患者はコイルを内蔵したベストを着用し、マイクロ波でカプセルに電力を送信するしくみ。

そのほか、燃料電池に水素を送り込み、発電した電力でカメラ映像を表示する体験コーナーや、太陽電池や光触媒など、環境に配慮した新技术も紹介している。パート1となる今回の会期は12月17日まで。入場は無料。